

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 茂本 咲子

論 文 題 目 早産で出生した幼児の養育の特徴とその関連
要因の検討ー食に関する養育についての親の
認識アセスメントツールの作成と活用ー

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	榊原 久孝
	名古屋大学教授	本田 育美
	名古屋大学教授	奈良間 美保

論文審査の結果の要旨

医療の発展に伴い、在胎 37 週未満の早産児が救命されるようになった。早産で出生した幼児は低身長や言葉の発達の遅れ、将来メタボリックシンドロームを発症するリスクが高いことが報告される中、早産児の母親がわが子に食べさせようとする試行錯誤の育児体験については未だ十分に明らかではなく、親子の相互作用の視点からその特徴を明らかにする意義が大きいと考えた。

本研究では、幼児の養育者 213 名に対する調査結果より、食に関する養育についての親の認識アセスメントツール (Parental Perception of Toddler and Preschooler Feeding Assessment Tool: PPTPFAT) を開発するとともに、早産児の養育者 76 名の調査に活用し、養育の要因を明らかにした。

本研究の新知見と意義は以下のとおりである。

1. 幼児期の親子の相互作用に着目して作成した PPTPFAT は、【F1:子どもが自発的に食べることを支える】【F2:健康に配慮して食生活を調整する】【F3:行儀のよいふるまいを求める】【F4:子どもの欲求を理解する】の 4 因子、18 項目で構成され、食に関する幼児の養育に関する親の認識アセスメントツールとして、一定の信頼性・妥当性が確認された。
2. 早産児の親の PPTPFAT による養育得点の高さには、食における子どもの反応性、及び子どもの年齢が高いこと、育児ストレスが低いことと関連が見いだされた。
3. 3 歳以下の早産児の親においては、PPTPFAT の F1 が高いこととエネルギー摂取量および体重が高いことに有意な関係があった。一方、4 歳以上の早産児の親は F3 が高いこととエネルギー摂取量が低いことに有意な関係が認められ、成長に伴い子どものふるまいや食事摂取を求める親の姿勢と早産児の食事摂取量の少なさが関連していることが新たに見いだされた。
4. 本研究は、早産で生まれた幼児と養育者の看護において、成長に伴う食に関わる親子の相互作用の特徴に注目しながら子どもの育ちやサポートの実感を支える支援の重要性と、PPTPFAT の活用の意義を示した。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。